

プラント状況確認結果(令和3年7月7日～令和3年7月13日)

令和3年7月14日
福島県原子力安全対策課

令和3年7月7日～令和3年7月13日までの期間に、東京電力から福島第一原子力発電所のプラント状況に関する報告内容について、県が確認した結果は次のとおりであり、前回の報告から大きな変動はありません。

プラント状況(7月13日午前11時)

以下の項目について、実施計画*に定める制限を超える測定値はありません。

また、県の檜葉町駐在職員が福島第一原子力発電所中央操作室にてプラント状況を確認しています。確認結果はこちら([県HP](#))を御覧ください。

場所	目的	監視項目*	1号機	2号機	3号機	4号機 ^{※2}
原子炉 ^{※1} (核燃料)	冷却	注水量(m ³ /h)	3.6	3.0	2.9	—
		压力容器 底部温度(°C)	24.8	29.1	27.4	—
	未臨界確認	キセノン135濃度 (Bq/cm ³)	8.80×10 ⁻⁴	検出限界値 未満	検出限界値 未満	—
压力容器	水素爆発防止	窒素充填	充填中	充填中	充填中	—
格納容器		水素濃度 (体積%)	0.00	0.02	0.06	—
使用済燃料 プール	冷却	水温(°C)	31.2	30.0	25.0	—

※1 直近データのみ記載。詳細は[東京電力のページ](#)を御覧ください。

※2 4号機は原子炉及び使用済燃料プールに核燃料が入っていないため冷却等は必要ありません。

(1) 発電所敷地境界におけるモニタリングポストの測定結果(7月13日午前10時)

最小 0.363 (MP-6) ~ 最大 1.065 (MP-4) μSv/h ⇒ [計測地点の地図](#)

(2) 発電所専用港内の海水中セシウム137濃度の測定結果(7月12日採取分)

最小 検出限界値未満 ※検出限界値は約 0.49 Bq/L (湾岸口)

~ 最大 6.4 Bq/L (東波除堤北側)

⇒ [計測地点の地図](#)

(3) 発電所専用港外(沿岸)の海水中セシウム137濃度の測定結果(7月12日採取分)

5、6号機放水口北側: 検出限界値未満 ※検出限界値は約 0.73 Bq/L

南放水口付近: 検出限界値未満 ※検出限界値は約 0.64 Bq/L

⇒ [計測地点の地図](#)

(4) 発電所敷地内の大気中セシウム137濃度の測定結果

敷地境界に設置されている連続ダストモニタにより24時間連続で監視しております。測定結果はリアルタイムで公開されていますので、こちら([東京電力HP](#))を御覧ください。

(5) 1～6号機タービン建屋付近のサブドレン水中セシウム137濃度の測定結果(7月9日採取分)

最小 検出限界値未満 ※検出限界値は約 5.9Bq/L (3号機と4号機)
～ 最大 420 Bq/L (2号機)

トラブルの概要(令和3年7月7日～令和3年7月13日)

この一週間におけるトラブル等について、東京電力から以下のとおり報告を受けました。

- 一時保管エリアP排水枡における全ベータ値の一時的な上昇について(続報)
7月7日にお知らせしております、一時保管エリアP排水枡における全ベータ値の一時的な上昇について、その後の状況をお知らせします。
原因調査のため、一時保管エリアP1、P2、E1の近傍を流れる排水溝、排水枡、陳場沢川河口の水を採取し、分析を行いました。分析の結果、一時保管エリアP南側排水溝および東側流入地点(上流)の全ベータ値が高いことを確認しました。
なお、一時保管エリアP排水枡や陳場沢川河口においては、全ベータ、セシウム137、セシウム134ともに検出限界値未満であることを確認しています。上記分析結果を踏まえ、一時保管エリアP南側排水溝および東側流入地点(上流)の排水溝の清掃を行うとともに、ゼオライト土嚢の設置作業を現在実施しております。
詳しくはこちら [\(1\)](#) ご覧ください。
- 一時保管エリアP排水枡における全ベータ値の一時的な上昇について(続報)
7月7日、周辺の状態調査を実施したところ、シート養生の代用として一時保管エリアP2で使用しているノッチタンク2基の天板ハッチ部蓋が4箇所ずれており、タンク内および天板上に水が溜まっていることを確認しました。
天板のハッチ部蓋がずれていたノッチタンク2基内の水および同タンク上面の水を採取し、分析を行いました。
天板のハッチ部蓋がずれていたノッチタンク2基については、天板上にシート養生を実施するとともに、ノッチタンク廻りへのゼオライト土嚢の設置を実施しております。
詳しくはこちら [\(1\)](#) ご覧ください。
- 一時保管エリアP排水枡における全ベータ値の一時的な上昇について(続報)
天板のハッチ部蓋がずれていたノッチタンク2基については、7月8日、蓋を閉めて天板上にシート養生を実施するとともに、ノッチタンク廻りへのゼオライト土嚢の設置、ならびに一時保管エリアP南側排水溝および東側流入地点(上流)の排水溝の清掃を実施しました。
7月9日の降雨に伴い、調査の一環として、下記の通り一時保管エリアP周辺の水を採取し、分析を行いました。
7月7日に実施した分析結果において、全ベータ放射能濃度が高かった東側流入地点(上流)、および一時保管エリアP南側排水溝については、シート養生やゼオライト土嚢の設置、ならびに排水溝の清掃により、全ベータ放射能濃度が低下していると評価しております。
また、7月9日、陳場沢川河口及び南側排水溝排水口で確認された全ベータ放射能については、サンプリングした水は降雨に伴う土砂を含んでいること、および全ベータ放射能濃度とセシウム137の濃度が概ね等しいことから、フォールアウトに起因するものと判断しております。
詳しくはこちら [\(1\)](#) ご覧ください。

■ 一時保管エリアP排水枡における全ベータ値の一時的な上昇について（続報）

7月10日、調査の一環として、陳場沢川河口の水を採取し、分析を行った結果、検出限界値未満であることを確認いたしました。

なお、今後、調査の一環として採取する一時保管エリアP周辺の水の分析結果において、有意な変動を確認した際は、都度、お知らせいたします。

詳しくはこちら [\(1\)](#) ご覧ください。

■ 一時保管エリアP排水枡における全ベータ値の一時的な上昇について（続報）

一時保管エリアP2のノッチタンク内の水をポンプ車で汲み上げを実施しました。

- ・移送先 : 集中廃棄物処理施設プロセス主建屋
- ・移送開始 : 午前11時12分
- ・移送終了 : 午後2時1分
- ・移送量 : 約23m³

移送時には、漏えい等の異常がないことを確認しております。また、移送時に取り外した天板上のシート養生については復旧しております。

引き続き、当該エリア周辺のサーベイ等、汚染源の調査を継続し、当該排水枡や排水溝の全ベータ値がセシウム137の値に比べて有意に上昇した原因を調査するとともに、調査結果をふまえ、追加対策を講じてまいります。

詳しくはこちら [\(1\)](#) ご覧ください。

■ スラッジ保管施設重機仮置き場付近における油の痕跡発見について

本日（7月9日）午後1時5分頃、スラッジ保管施設重機仮置き場付近において、油の痕跡があることを協力企業作業員が発見しました。

状況は以下のとおりです。

- ・漏えい範囲 : 確認中
- ・漏えい継続の有無 : なし
- ・双葉消防本部への連絡時刻 : 午後1時12分（119番通報）

午後2時54分、現場確認をした結果、油は確認されませんでした。

また、近傍の排水路を確認した結果、油の流入も確認されませんでした。

午後3時00分、富岡消防より「その他のその他（現場確認したところ油の滴下は確認されなかった）」と判断されました。

詳しくはこちら [\(1\)](#) [\(2\)](#) ご覧ください。

* 実施計画及び監視項目に関する解説

○実施計画

正式名称は「福島第一原子力発電所特定原子力施設に係る実施計画」。東京電力の廃炉の取組（設備設置含む）について、原子力規制庁が安全性の審査を行い認可したもので、事業者の安全上守るべき基準値等が示されています。

○注水量及び圧力容器底部温度

1～3号機の原子炉格納容器内に存在する溶け落ちた燃料（燃料デブリ）を冷却するため、継続的な注水を行っています。実施計画では原子炉圧力容器の底部温度を80℃以下で管理することを定めています。

○キセノン 135 濃度

キセノン 135 はウランが核分裂する過程で生じる放射性物質であり、量によってどの程度核分裂が起きているか推定することができます。実施計画では1 Bq/cm³以下であることが定められています。

○窒素充填及び水素濃度

水素爆発防止を目的に、原子炉内の水素濃度を測定し、実施計画に定める制限値（2.5%）よりも低いことを確認しています。1～3号機では、原子炉格納容器に窒素を注入することにより水素や酸素の濃度を下げています。

○水温

使用済燃料プールの水を循環冷却することにより、プール水温を管理しています。なお、実施計画では60℃（1号機）または65℃（2、3号機）以下で管理することが定められています。

（お問い合わせ 024-521-7255）